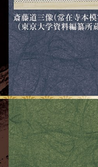
岐阜を舞台とした戦国時代のドラマ

国盗りの時代のまちづくり
―土岐氏から斎藤道三へ

16世紀になると、美濃国守護土岐氏は守護所を革手、加納から福光、枝広、そして大桑城へと移します。それに続き斎藤道三が居城としたのは本巣郡隆盛の結節点である川手城、井口と稲葉山でした。

道三は、現在の岐阜の町の礎を造りましたが、その人柄は「武将から学んだ部分も多いと思われます。土岐氏と道三のまちづくりは織田信長、そして明智光秀や豊臣秀吉にも影響を与えたと、とてもよう。それはやがて全国の近世城下町につながっていたのです。


斎藤道三像(常在寺本模写)(東京大学資料編纂所蔵)

岐阜城跡 史
金華山(稲葉山)に築かれた戦国時代の山城です。斎藤道三により本格的な城郭整備が行われ、後に織田信長の天下統一の拠点となりました。当時の様子はルイス・フロイスの記録からも窺えます。近年の発掘調査等により、山麓の居館跡や山上の城郭の様子が明らかになりつつあります。
時代:戦国時代　所在地:岐阜市金華山 C-4

復興天守と石垣

加納城跡 史
慶長6(1601)年、戦国時代の館(中世加納城)の跡地に、天下普請によって築かれた平城です。本丸、二の丸、三の丸等の周囲は堀と川で囲まれていました。二ノ丸北東隅の御三階櫓には、岐阜城天守が転用されたと伝えられます。初代藩主は家康の長女亀姫が嫁である奥平信昌です。
時代:江戸時代　所在地:岐阜市加納丸の内 C-5

加納城跡(南から)

黒野城跡(南西から)

黒野城跡 史
文禄3(1594)年、加藤貞泰が美濃国黒野4万石に封じられた際に築城した平城です。貞泰は16年間、城下町の整備や治水事業を行いました。慶長15(1610)年に伯耆国米子へ転封、廃城となりました。本丸の土塁がよく残っており、発掘調査では入口部分の石垣が見つかっています。
時代:戦国時代　所在地:岐阜市黒野388 B-3

おもてなしの原風景
―道三・信長の城・町・川文化

城と町を一体化させた織田信長は「町の名を岐阜と改めるとともに「天下布武」を掲げ、日本を掌握していきます。山麓を改修して巨大庭園を持った迎賓館を構築、山上部は道三を受け継いでさらに発展させた城造りを行いますが、信長はそこにも人を招きました。彼は城と城下町、長良川が、体となった景観を活かし、自ら案内を行ったのです。

信長の時代、岐阜の城、町、川文化は多くの人に知られます。それは岐阜市民、観光の原点、おもてなしの原風景といえるでしょう。

【「信長公のおもてなし」が繋ぐ「新田城下町」城郭と城下町。日本遺産第一号に認定されています。】

織田信長像(崇福寺蔵)

長良川の鵜飼漁の技術 史
岐阜市長良と関市小瀬に伝承される、飼い慣らした鵜を巧みに操って、鮎などの川魚を捕える技術です。鵜匠らが鵜舟に乗って川を下りながら漁を行うもので、漁には10～12羽の鵜が用いられます。信長をはじめとする時の権力者は、鵜飼見物をおもてなしとして用いました。

長良川の鵜飼漁の技術(総がらみ)

長良川中流域における岐阜の文化的景観 史
長良川、金華山、町と人々が一体となって形成してきた「岐阜市の原風景」です。人々は古くから長良川を物流の主軸、鵜飼の舞台として、また金華山を政治の拠点として利用してきました。街区などのまちの基盤は道三、信長等の権力者により整備され、現代に継承されています。

長良川中流域における岐阜の文化的景観

道三塚 墓
斎藤道三を葬った墓です。弘治2(1556)年、長良川の戦いで道三は息子・義龍に敗れ戦死します。その遺体は美濃寺の西南に埋葬されました。長良川の洪水でたびたび流されたため、天保8(1837)年に菩提寺である常在寺の住職によって現在地に移されました。
時代:江戸時代　所在地:岐阜市長良福光2495 C-4

道三塚の墓碑

織田塚・伝織田塚改葬地 史
天文13(1544)年、信長の父・織田信秀は斎藤道三の居城・稲葉山城を攻撃しますが、日が暮れ始めた頃、天候が急変し、大雨に見舞われました。この時、約5千人が討死したと伝えられています。この戦死者を葬った塚が織田塚です。現在、岐阜市霞町と円徳寺境内の2か所に存在します。
時代:戦国時代　所在地:岐阜市霞町18・神田町6-24 C-4

織田塚(霞町)

新時代の都市経営
―織田秀信と三つのまち

「日本の作り組みを決定づけた」町の原型は、西軍の織田秀信は、前哨戦となる岐阜城の戦いで敗北、高野山に追われます。敗軍の将となった秀信ですが、町に民政、治水、財政を担当する奉行を置くなど、祖父・信長に学ぶ城郭建設の手腕を見せました。

戦いの後、岐阜城下町は「弧状商業都市」として発展します。「田野城主・加藤貞泰は治水事業に尽力、加納藩主・奥平信昌も秀信が掌握した交通網を継承、発展させました。秀信が目指したまちづくりは三つの町に受け継がれ、今日の岐阜市を形作っているのです。

織田秀信像(円徳寺蔵)

常在寺 史
斎藤氏の菩提寺として知られる寺院です。守護土岐氏の家臣であった斎藤妙椿が分譲寺の機、日観を招いて建立したといわれています。境在寺殿の国重要文化財・絹本著色斎藤道三像、斎藤義龍像は、それぞれ遺姫、斎藤龍興が寄進したと伝えられています。
所在地:岐阜市梶川町9 C-4

常在寺

円徳寺 史 禁
織田信長や秀信ゆかりの寺院です。かつては長旗付近にあり、「浄京坊と呼ばれていましたが、永禄年間(1558～1570)に現在地に移転したとされています。織田信長が、入城以前から赤っ茶市場の移転を怒め、市場の活性化を目的とした国重要文化財の楽市楽座刑札等が伝来しています。
所在地:岐阜市神田町6-24 C-4

円徳寺

崇福寺 禁
臨済宗妙心寺派の寺院で、永禄10(1567)年、信長が岐阜に入って間もなく織田家菩提寺となりました。本能寺の変で信長・信忠が討されると、側室お鍋の方が手紙とともに遺品を送り、位牌を安置させたといわれています。寺には市史跡の織田信長父子墓の他、様々な資料が伝わっています。
所在地:岐阜市長良福光2403-1 C-4

崇福寺

御園の榎 禁
楽市場入口に、市を守る神として植えられていた榎です。享保2(1717)年、尾張藩尊農奉行の朝日文左衛門は岐阜訪問時に立ち寄っており「道の真中に古大榎あり」と記しています。榎は、明治初期の頃に現在の場所に移されました。

御園の榎

時代:戦国時代　所在地:岐阜市若宮町1-8 C-4

長良城跡 史
芥見権現山に築かれた山城で、土岐元頼(長山四郎)の居城と伝えられています。元頼は、美濃守護職の後継を巡り、異母兄の政房と争い、明応5(1496)年の船田合戦で敗れました。長山城は臨時的な築城とみられ、船田合戦以後に廃棄された可能性が指摘されています。
時代:戦国時代　所在地:岐阜市芥見 F-4

長山城主郭部分

鷺山城跡・鷺山館跡
美濃国守護・土岐頼芸や斎藤道三が居城にしたと伝えられます。山上には城跡を示す遺構は認められませんが、東山麓には東西150m、南北200mほどの巨大な方形館の存在が推定されています。また館の東側一帯には、土岐氏の福光城下町が営まれていたことが判明しています。
時代:戦国時代　所在地:岐阜市鷺山 C-4

鷺山(北東から)

枝広館推定地
天文元(1532)年に守護・土岐頼芸は本拠を福光城から枝広館に移しました。しかし、わずか3年後に長良川の洪水によって大きな被害を受け、大桑城へ再転します。発掘調査では、幅15m、深さ5mの巨大な堀とともに、行行李(竹を編んで作った容器)などがみつかりました。
時代:戦国時代　所在地:岐阜市長良1466-10 D-4

発掘調査で見つかった堀跡

北野城跡
土岐氏の家臣、饒頭屋作守保重以下4代の居城と伝えられます。4代忠国の時、斎藤道三は弘治元(1555)年秋から翌年春まで、ここに屯ったと伝わっています。城の詳細は不明ですが、地籍図から土塁と堀で囲まれた一辺約100mの方形の館が存在したと推定されています。
時代:戦国時代　所在地:岐阜市北野東 E-2

北野城推定地(白鳥神社)

大桑城跡
守護・土岐氏の山城です。枝広館が水害に遭った後、土岐頼芸は大桑に政治的機能を移し、城と城下町を整備しました。天文12(1543)年、道三との戦いにより落城、頼芸は天文19(1550)年頃、道三によって、国外へ追放されます。山頂一帯には、大小90余の曲輪が分布しています。
時代:戦国時代　所在地:山県市古城山 C-1

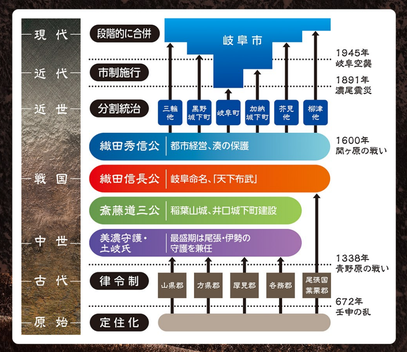
大桑城跡とミニ天守

その他関連文化財
革手城推定地、正法寺跡、船田城推定地、柳土手城館推定地、福光城推定地、鵜山、黒保城跡、岐阜城下町、加納城下町、土岐成頼墓、斎藤妙椿墓、奥平信昌夫妻墓、土岐政房墓、濃姫遺髪塚、成就院跡、奥平信昌像、亀姫像、楽市楽座制札　他

岐阜市の歴史

古代、複数の郡に分かれていた岐阜市域は、中世～戦国時代には守護や戦国大名による一体的な統治が行われましたが、江戸時代になると再び複数の領主が入り混じる時代となります。近代以降、岐阜町を中心に段階的に合併が行われ、現在の「岐阜市」が形成されました。

こうした歴史の中で、戦国時代は岐阜市の礎が築かれ、日本史上重要な舞台となった時代です。土岐氏や斎藤道三による先進的なまちづくり、織田信長の天下統一とおもてなし、織田秀信から始まる新時代の都市経営や関ケ原の戦いなど、岐阜は全国に大きな影響を与えました。

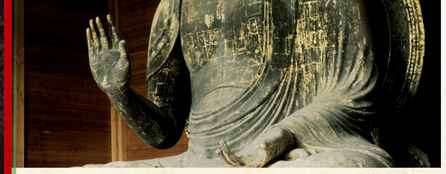


人々の営みが育んだ岐阜の特質

自然と共に生きる
―長良川の恵みと食文化、水との戦い

中央に清流長良川が流れる岐阜市は、都市のすぐ近くに豊かな自然があることが特色で、少し足を伸ばせば貴重な植物や懐かしい農村の風景を見ることができます。平地では、16世紀までに山県用水や悪郷用水等が造られます。清流で育った美濃米は品質が高く、流域では砂質土壌を活かして、大根や枝豆等も作られるようになりました。長良川では鵜飼や瀬張り網漁などの漁労が連綿と継承されています。

一方、人々はたびたび長良川の水害に遭ってきました。江戸時代の人々は集落と耕地を守るため堤防や輪中を造り、これに対抗します。水との戦いが節を迎えるのは、三本に分かれていた長良川の締切工事が完了する昭和になってからです。現在の景観はこのような自然との関わりの中で恩恵を受け、ある時は戦いながら生活を営んできた結果なのです。


木造釈迦如来坐像

真長寺と木造釈迦如来坐像 史 禁 宝
高野山真言宗の寺院です。行基により奈良時代に創建、平安時代に三輪神社の別当寺(神社を管理するために置かれた寺)となり、戦国時代には16の僧坊を擁する真言密教の修験道場として栄えました。永禄元(1558)年の火災で多くが焼失したと伝えられています。

平安時代に造られ、三輪釈迦の名で親しまれている国重要文化財「木造釈迦如来坐像」は、山県用水開削工事の守り本尊です。桂材とヒノキ材を用いた寄木造りで、漆箔で仕上げられており、その高さは台座を入れると367.8cmに及びます。また、江戸時代初期に造られた枯山水様式の石庭は市名勝に指定されており、毎年行われている観月会や紅葉まつりの際に、一般公開されています。
時　代:平安時代　所在地:岐阜市三輪778-1 E-2

清流長良川の鮎 世界農業遺産
長良川は都市部を流れる川でありながら、流域の人々の暮らしの中で清流が保たれ、その清流で鮎が育っています。清流と鮎は、地域の経済や歴史、食、文化と深く結びついており、こうした長良川全体のシステムが世界農業遺産として認定されています。

鵜飼で獲れた鮎

鮎鮨と鮎料理 商 100年フード
鮎は、古代から朝廷に納められてきた岐阜の特産品で、様々な調理法があります。鮎鮨は、魚と塩とご飯を用いて発酵させる「なれずし」の一種で、江戸時代には将軍家にも献上されました。近年、文化庁の100年フードに認定された他、その製法は「難匠家に伝承する鮎鮨製造技術」として市重要無形民俗文化財に指定されています。

鮎料理

願成寺と中将姫誓願ザクラ 史 景 商
国天然記念物「中将姫誓願ザクラ」は、願成寺境内にあるヤマザクラの変種で、中将姫が折願して植えたと伝わっています。花弁やオシベの数は20～30弁を数え、通常のヤマザクラより多いことが特徴です。この他、願成寺には彫刻や工芸、絵画、書跡など各分野の文化財が所蔵されています。
所在地:岐阜市大洞1-21-2 F-3

中将姫誓願ザクラ

大洞のシデコブシ群落 商
シデコブシは、モクレン科の落葉樹で、春先に白から薄紅色の花を咲かせます。日本の固有種で、東海地方のごく一部の地域しか分布しておらず、自生する群落は貴重です。岐阜市内で自生している場所は大洞の一ヶ所のみで、市天然記念物に指定されています。
所在地:岐阜市大洞緑山1 F-3

大洞のシデコブシ群落

則武輪中跡・扇殿堤跡 商
かつて、長良川は井川・古川・古々川の3本に分かれていました。17世紀初め、則武村を治めていた黒野藩主の加藤左衛門尉貞泰は、村の住民を集めてこの堤防を築いたとされています。この場所は古川と古々川の分岐地点であり、則武村の輪中堤防の起点でもあったと考えられます。
時　代:江戸時代　所在地:岐阜市則武東1-1 C-4

則武輪中跡・扇殿堤跡

その他関連文化財
宝暦治水工事義没者墓、畑瀬堤跡、鏡岩、山県用水、悪郷用水、各務用水、鳥輪中、長良川鵜切記念碑、横土手、山県南とい、太鼓踊り、熊野神社デンデラガハシの神事、大洞のコバノミツバツツジ群落、米、守口大根、岐阜大根、柿、枝豆、いちご、ほうれん草　他

東海のシルクロード
―陸運と水運、産業

日本の中央に位置する岐阜市は、古くから交通の要衝として知られています。奈良時代には東山道、江戸時代には中山道や河渡宿、加納宿が整備され、街道や河川の交通網を通じて、美濃の特産品が都へ運び出されました。

中でも絹や綿は時代を通じて有名で、江戸時代には岐阜縮緬や美濃紙として京都や江戸で販売されました。他にも江戸時代の岐阜では、上流からもたらされた和紙や竹を用いて、岐阜提灯や岐阜団扇、岐阜和傘が盛んに作られ、流通網を活かして江戸や京都、大阪に出荷されました。その文化は木や竹、和紙からなる籠大仏を生み出すこととなります。

近代以降、交通の主役は鉄道や車に移りますが、岐阜では新たな交通網と豊富な資源、それまでの絹・綿産業を背景に製糸・紡績業が盛んになり、アパレルの町へと発展していったのです。

籠大仏

正法寺と籠大仏附木造薬師如来坐像 禁 商
金鳳山正法寺は江戸時代初期に中国から伝わった黄檗宗の寺院で、黄檗山萬福寺(京都府宇治市)の末寺です。11代住中和尚が大釈迦如来像の建立を図り、38年の歳月を費やして、天保3(1832)年に本尊が完成しました。現在も岐阜大仏として親しまれています。

本尊の高さは約13.7m、「眞木(心木)」と呼ばれる木の柱が、台座から背中を通って天井まで伸びており、大仏殿と一体で造られていることが分かります。木材で骨格を組み、麻を編むように竹で大仏の大まかな形に下地を編み、そこに粘土を塗って一切経の書かれた紙を張る、さらにその上に漆を使って金箔を施すという作り方でできていることから、籠大仏と呼ばれています。この作り方では日本一大きい大仏です。
時　代:江戸時代　所在地:岐阜市大仏町8 C-4

老洞・朝倉須恵器窯跡 史
奈良時代前半の窯跡です。「美濃国」「美濃」と刻印された須恵器が発見され、窯跡は国史跡、出土品は国重要文化財に指定されています。奈良時代、須恵器は美濃の特産品のひとつとして平城京に運ばれますが、刻印須恵器も平城京を中心に、愛知や大阪の役所関連遺跡等で見つかっています。
時　代:奈良時代　所在地:岐阜市芥見6 E-4

老洞・朝倉須恵器窯跡

中山道河渡宿
河渡宿は、長良川の渡しのための宿場町です。220mほどの街並みの小規模な宿でしたが、天候が悪い時などには多くの泊り客で賑わいました。河川改修により、町の様子は大きく変わりましたが、一里塚や馬頭観音堂などが当時の面影を今に伝えています。
所在地:岐阜市河渡 A-5

中山道河渡宿

中山道加納宿

御館街道
徳川家康・秀忠は、大坂夏の陣で勝利した帰途に岐阜に滞在して鵜飼を見物しますが、その際に鮎鮨を気に入り、以後、江戸に献上するようになります。その際この道を通ったため、御館街道と呼ばれるようになりました。岐阜町と加納城下町、名古屋を結ぶ、南北の主要道路です。
所在地:岐阜市内 C-4～6

御館街道

中山道加納宿
加納宿は、城下町と一体となった美濃最大の宿場町で、岐阜と名古屋を結ぶ御館街道の中継点でもあります。中山道は、時折、大名行列や姫宮の輿入れ等で賑わいました。本陣跡には、皇女和宮が宿泊した際に詠んだ歌の歌碑があり、往時を偲ぶことができます。
所在地:岐阜市加納 C-5

中山道加納宿

小紅の渡し
長良川に唯一残っている、県道の渡し船です。江戸時代前期に加納城下町と北方陣屋を結ぶ道として整備されたといわれています。「小紅」の名前の由来は、小紅という女船頭がいたという説や、花嫁が川面に顔を映して紅を直したという説があります。
所在地:岐阜市鏡島～一日市場 B-4

小紅の渡し

その他関連文化財
郡上街道、谷汲街道、高富街道、伊自良街道、長良川役所跡、鏡島港跡、中の渡し跡、亀の渡し常夜灯、繊堀の一里塚、往来の松、岐阜国屋、岐阜和傘、岐阜油紙、のほり鯉、美濃筒引き本染め、手刷り捺染、丸窓電車　他

カミの山からヒトの山へ
―稲葉山と信仰、神話

岐阜市のシンボルである稲葉山(金華山)、その麓に12代景行天皇の兄・五十瓊敷入彦命を祀ったことが伊奈波神社の始まりです。また琴塚古墳は、景行天皇の妃である五十琴姫命の墓と伝えられています。このような神話の時代を経て多くの神社仏閣が建立され、様々な信仰が生まれましたが、稲葉山は伊奈波神社と共にこの地の中心的な存在であり続けました。

カミの山であった稲葉山は、斎藤道三により城郭として利用され、以降、歴代城主はカミの山と一体となって成光を示します。廃城後、尾張藩が管理する御留山として一般人は立入禁止になりますが、明治時代になると、誰でも自由に入り登りを楽しむことができる、身近なヒトの山となりました。その一方で社殿があった丸山では、今も伊奈波神社の例祭が行われています。カミの山としての灯火は連綿と継承されているのです。

琴塚古墳(南東から)

琴塚古墳 史
全長115m、岐阜県内で3番目の大きさを誇る前方後円墳です。周辺には各務原市にかけて4つの前方後円墳で構成される古墳群がありましたが、現在は、琴塚古墳と柄山古墳(各務原市)のみが残っています。

琴塚古墳は前方部と後円部が同じ幅であり、この形から5世紀頃に造られたと考えられています。周囲には2重の濠と堤がめぐり、墳丘は3段で築かれていた可能性があります。出土品や内部の構造はほとんど不明であるため、だれが埋葬されていたかわかっていませんが、伝承では、景行天皇の妻・五十琴姫命と伝えられ、琴塚の名の由来となっています。現在も地元の人たちによって保護活動が行われ、大切に守られています。
時　代:古墳時代　所在地:岐阜市琴塚3-5 D-4

金銅獅子唐草文鉢 副宝
金銅獅子唐草文鉢は、外面に獅子や唐草文を毛彫りした優雅な鉢で、市内唯一の国宝です。伝承では、東大寺建立の際、日野金丸という童子が都に呼ばれて大仏造営に関わり、その功績により朔廷から下賜された鉢を護国之寺に奉納したといわれています。年2回、拝観することができます。
時　代:奈良時代　所在地:岐阜市長良雄島194-1 D-4

金銅獅子唐草文鉢(護国之寺蔵)

伊奈波神社 史 禁 商
景行天皇の命を受けた竹内宿禰が、稲葉山のふもとに社殿を構えたことが始まりです。以降、歴代城主は、稲葉山城築城に伴い斎藤道三が現在地に移したと伝えられています。岐阜の町にとって、伊奈波神社は信仰の要であり、「氏神・伊奈波さん」として人々の間で親しまれてきました。
所在地:岐阜市伊奈波通1-1 C-4

伊奈波神社

上城田寺第4古墳群 商
古墳時代後期の群集墳です。平成3、4年度に行われた発掘調査により、横穴式石室をもつ直径10m前後の円墳14基が発掘されました。石室全長が7m近いものと2m程度の小さいものが混在しています。遊歩道等が整備・公開され、地元有志による清掃活動が定期的に行われています。
時　代:古墳時代　所在地:岐阜市城田寺 C-3

上城田寺第4古墳群(東から)

厚見寺跡 禁
厚見寺は金華山南麓に存在した7世紀後半頃の古代寺院で、現在の瑞龍寺境内には長径2.7mの巨心礎が残されています。周辺で「厚見寺瓦」と書かれた瓦が発見されたことで、当時の寺の呼び方が確認されました。同時期の古代寺院には、長良廃寺、大宝廃寺、鍵屋廃寺があります。
時　代:飛鳥時代　所在地:岐阜市寺町19 C-4

厚見寺跡 塔心礎

美江寺 史 商
現在の瑞穂市美江寺に創建され、斎藤道三による稲葉山城築城時に現在地に移転、その後信長が西野の不動、善光寺如来、小熊の地蔵を城下に移し、美江寺観音と共に城の守護四仏としたと伝わっています。本尊の「乾漆十一面観音立像」は国重要文化財に指定されています。
所在地:岐阜市美江寺町2-3 C-4

美江寺

その他関連文化財
瑞龍寺山頂遺跡、鏡塚古墳、岩崎1号墳、西山4号墳、智照院古墳、日野1号墳、日子坐命墓、金神社、榎森神社、西野不動堂、善光寺安楽院、小熊地蔵、法華寺、真長寺、乙津寺、延算寺　他

誇りと絆を紡ぐ古都岐阜の文化
―祭りと落語、遊宴文化

土岐氏には、鷹の絵、和歌などの文芸に秀でた者が多く、和歌や連歌、猿楽の会を催すなど、美濃の地に進の文化を広めました。道三・信長の城下町でも人々が行き交い、茶の湯等の文化や技術が伝えられます。こうしたことを素地として、訪問者をもてなす鵜飼観覧や遊宴文化など、岐阜ならではの文化が醸成されていきました。落語の祖・安楽庵策伝もこの時代に活躍した岐阜の僧です。

複数の領主が統治した江戸時代、鵜飼は一般人にも楽しまれるようになり、わずか4kmしか離れていない岐阜と加納、2つの町では盛大な都市の祭りが行われるようになります。周辺部でも俳諧や狂言、俳句、地芝居等の文芸が広まったほか、手力雄神社の氏子13カ村や三輪神社の氏子14カ村では、領主が異なる村々が協力して一つの祭りを行い、繋がりを深めました。岐阜の人々は、このような多彩な文化を通じ、地域の誇りと絆を育んでいったのです。

岐阜まつり

伊奈波神社祭礼に伴う岐阜まつり行事 商
中世から続く伊奈波神社の祭礼で、現在は4月第1土曜日に行われています。江戸時代の資料には27台の山車の様子が描かれているなど、町を挙げての祭りでした。現在残る山車4輌と神輿3基は、市重要有形民俗文化財に、岐阜まつり行事は市重要無形民俗文化財に指定されています。主な行事は、例祭および神幸祭、宵宮、山車奉安、からくり・神輿の奉納等で、神幸祭は、伊奈波神社の祭神・五十瓊敷入彦命の妃である浮舟斗媛命を祀る金神社、子息の市事雄命を祀る榎森神社と一体で行われます。

岐阜まつりの日には、市内各地の神社の祭礼や、遊三まつりの「みこしパレード」が行われ、町全体がお祭り気分となります。
所在地:岐阜市伊奈波1-1 C-4

手力雄神社火祭り 禁
4月第2土曜日に行われる手力雄神社の例祭です。豊作の占いと無病息災を祈願する意味合いがあり、江戸時代以降盛んに行われるようになりました。滝花火、手筒花火等が行われ、飾り神輿では、花火を仕掛けた神輿を裸男達が威勢よく担ぎます。県重要無形民俗文化財に指定されています。
所在地:岐阜市蔵前6-8-18 D-5

手力の火祭り

三輪神社稚児山の芸能 商
三輪神社の例祭である三輪まつりの中心的な行事で、現在は4月第1日曜日に奉納されています。神社境内に作られた舞殿(囃山)で、付き添いの大人の助けのもと稚児たちが舞を舞う芸能です。こうした舞は、中世に行われていた芸能が残されたものと考えられています。
所在地:岐阜市三輪965 E-2

稚児山の芸能

鵜飼観覧船操船技術 商
船からの鵜飼見物を支える観覧船の操船技術です。複数の船頭が前後に乗組み、水深の浅い所では竹製の棹を、深い所では船を漕ぐための櫂を使用して、流れの速い川を上下しながら運航します。船からの鵜飼見物が一般的になったのは、江戸時代後期頃からと考えられています。

鵜飼観覧船操船技術

船上の遊宴文化
戦国時代、武田信玄の使者・秋山伯耆守は信長から船による鵜飼観覧に招かれます。その後も、鵜飼観覧と船遊びは一体のものとして、人々に親しまれてきました。現在も長良川鵜飼から生まれた小唄「風折烏帽子」などの伝統的な遊興文化が継承されています。

船上の遊宴文化

葛懸神社禊祭り
中世から続くとされる葛懸神社の神事で、12月第2土曜日に行われています。祭礼では、下帯姿の男たちが長良川に入って禊を行い、身を清め、出雲から帰ってくる神を迎えます。無病息災を祈るこの祭りは、池ノ上みそぎ祭り、裸祭りとも呼ばれています。
所在地:岐阜市池ノ上町3-48 C-4

葛懸神社禊祭り

その他関連文化財
鵜飼観覧船造船技術、鵜匠装束(葛製品)制作技術、加納天満宮例祭、水薬師寺万灯流し、長良川まつり、ぎふ祭まつり、玉性院節分つり込み祭り、大龍寺だるま供養、鏡島弘法の縁日、高倉太鼓、獅子門正式伊津、獅子庵　他